

# 「日本のエネルギー・環境政策選択」 コメント

シンポジウム「日本のエネルギー・環境政策選択」  
(2013年7月6日)

高村 ゆかり(名古屋大学)

E-mail: [takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp](mailto:takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp)

# 日本のエネルギー・環境政策 選択のコンテクスト(1)

- 福島第一原子力発電所事故を契機とした2011年から始まった**エネルギー政策と温暖化政策の見直し**
  - コスト等検証委員会によるエネルギーコストの見直し
  - 基本問題委員会、原子力委員会、中央環境審議会による検討
  - 2012年9月、エネルギー・環境会議が「**革新的エネルギー・環境戦略**」
- 2012年12月の**政権交代によるゼロからの見直し**

2011年12月22日(木) 国家戦略会議(第5回)  
「日本再生の**基本戦略**」に反映

12月22日(木) 国家戦略会議(第5回)  
「日本再生の**基本戦略**」に反映

エネルギー・  
環境会議  
・グリーン成長  
戦略の検討

総合資源  
エネルギー調査会  
・エネルギーミックス  
の選択肢の  
**原案策定**

原子力委員会  
・原子力政策  
の選択肢の  
**原案策定**

中央環境審議会  
・地球温暖化  
対策の選択肢  
の**原案策定**

2012年6月 エネルギー・環境会議

○ エネルギー・環境戦略に関する戦略の**選択肢の提示**  
⇒ **国民的議論を進める**

エネルギー・  
環境会議  
・グリーン成長  
戦略(案)

総合資源  
エネルギー  
調査会  
・新・エネルギー  
基本計画(案)

原子力委員会  
・新・原子力  
政策大綱(案)

中央環境審議会  
・新・地球温暖  
化対策(案)

2012年9月

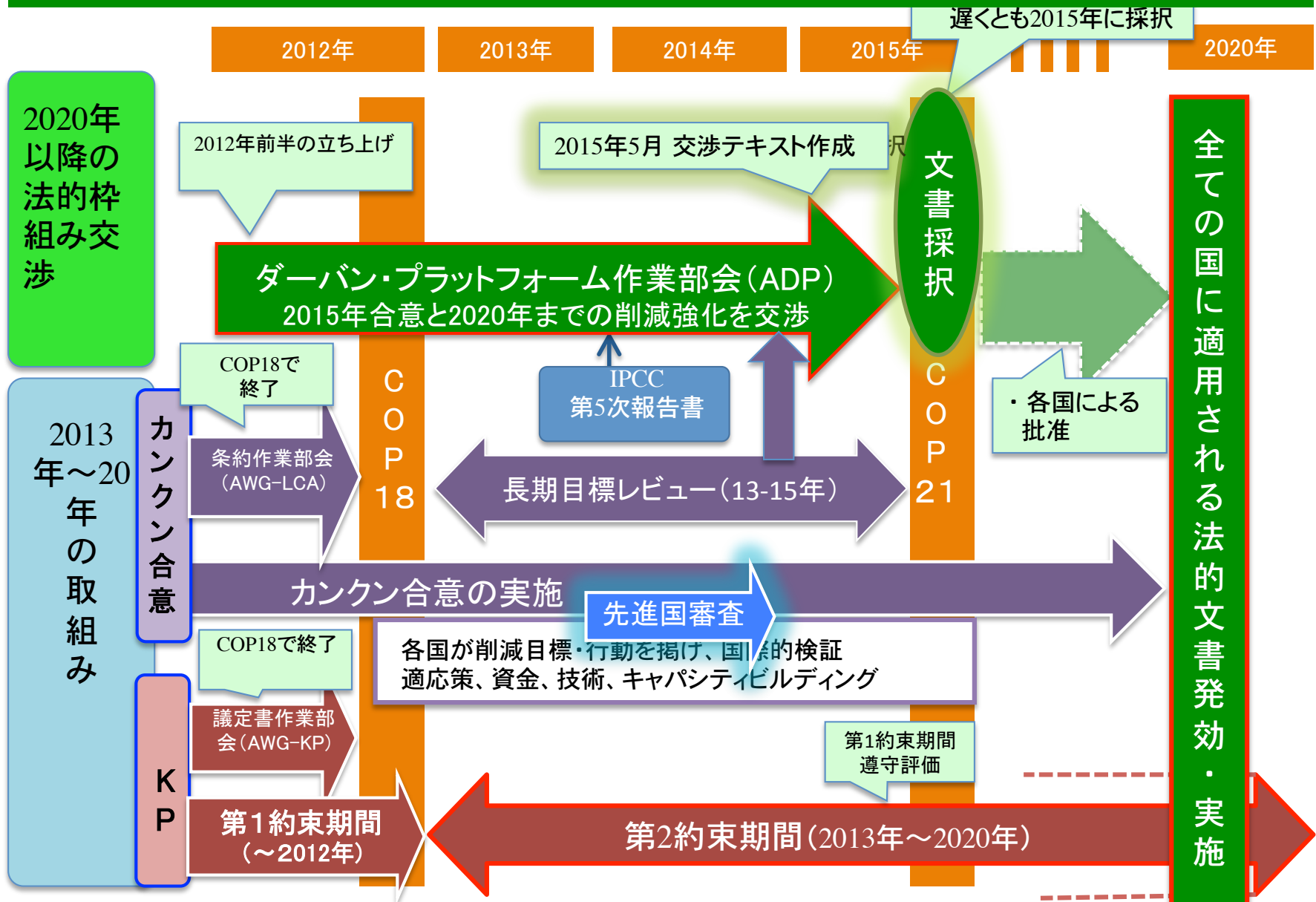
エネルギー・環境会議

○ 「革新的エネルギー・**環境戦略**」の決定

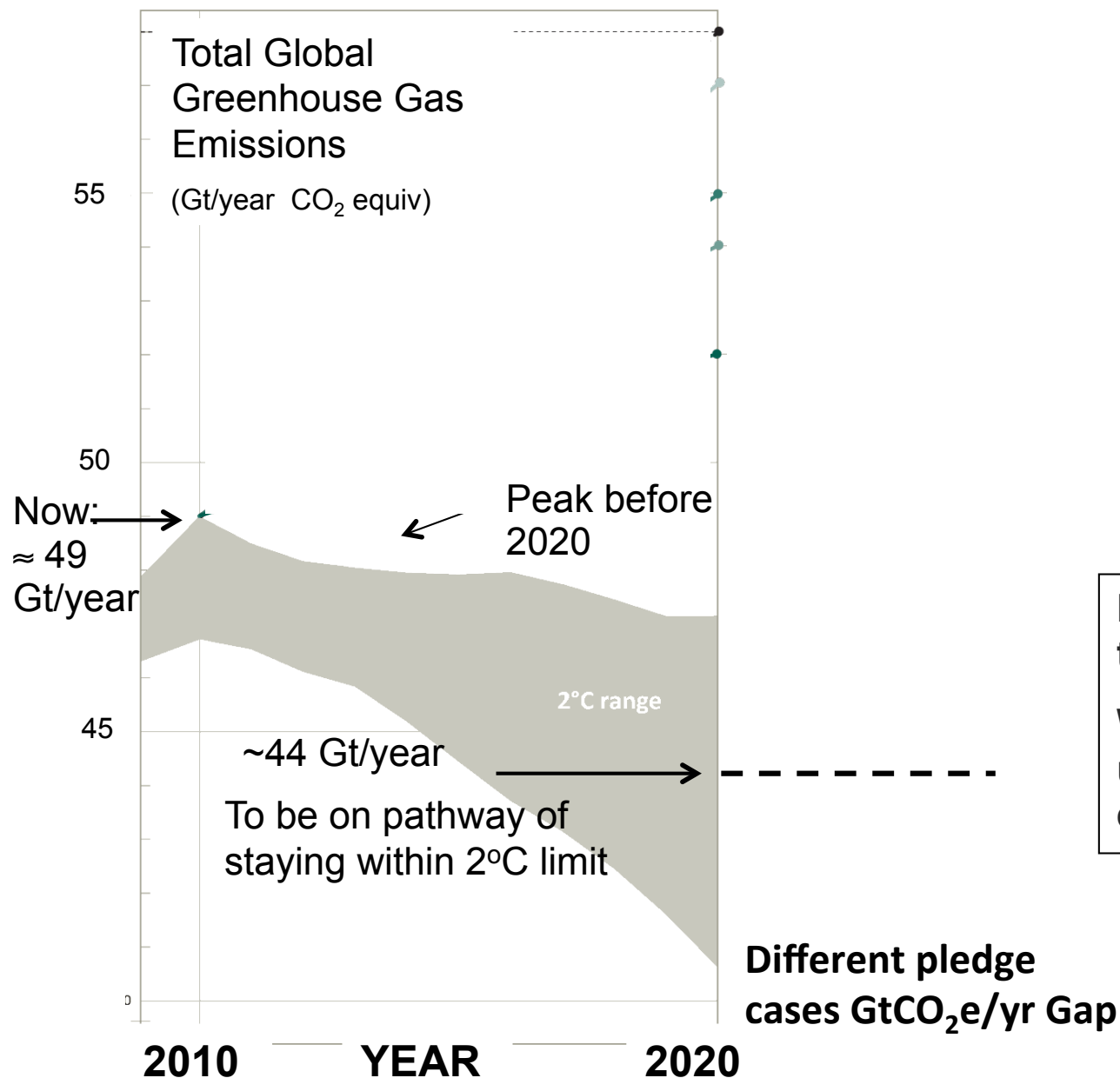
# 日本のエネルギー・環境政策 選択のコンテクスト(2)

- 2012年7月からの**再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)**の開始
- **電力システム改革**
  - 2013年4月閣議決定、電事法改正案国会提出。同年6月国会会期切れ廃案
- **気候変動問題への対処と低炭素社会への道筋**
  - 2度目標とEmission gap
  - 2050年80%削減(第4次環境基本計画)
  - 明確にならない2020年目標
  - 2015年合意:2025年 or 2030年目標?

# 2015年合意(2020年以降の法的文書)実施までの道のり



# Is there a gap -- between what we are aiming for and where we are headed in 2020?



**Under Business-as-Usual**  
Gap = 14 GtCO<sub>2</sub>e/yr

**Under different cases of country pledges:**  
Gap = 8 - 13 GtCO<sub>2</sub>e/yr

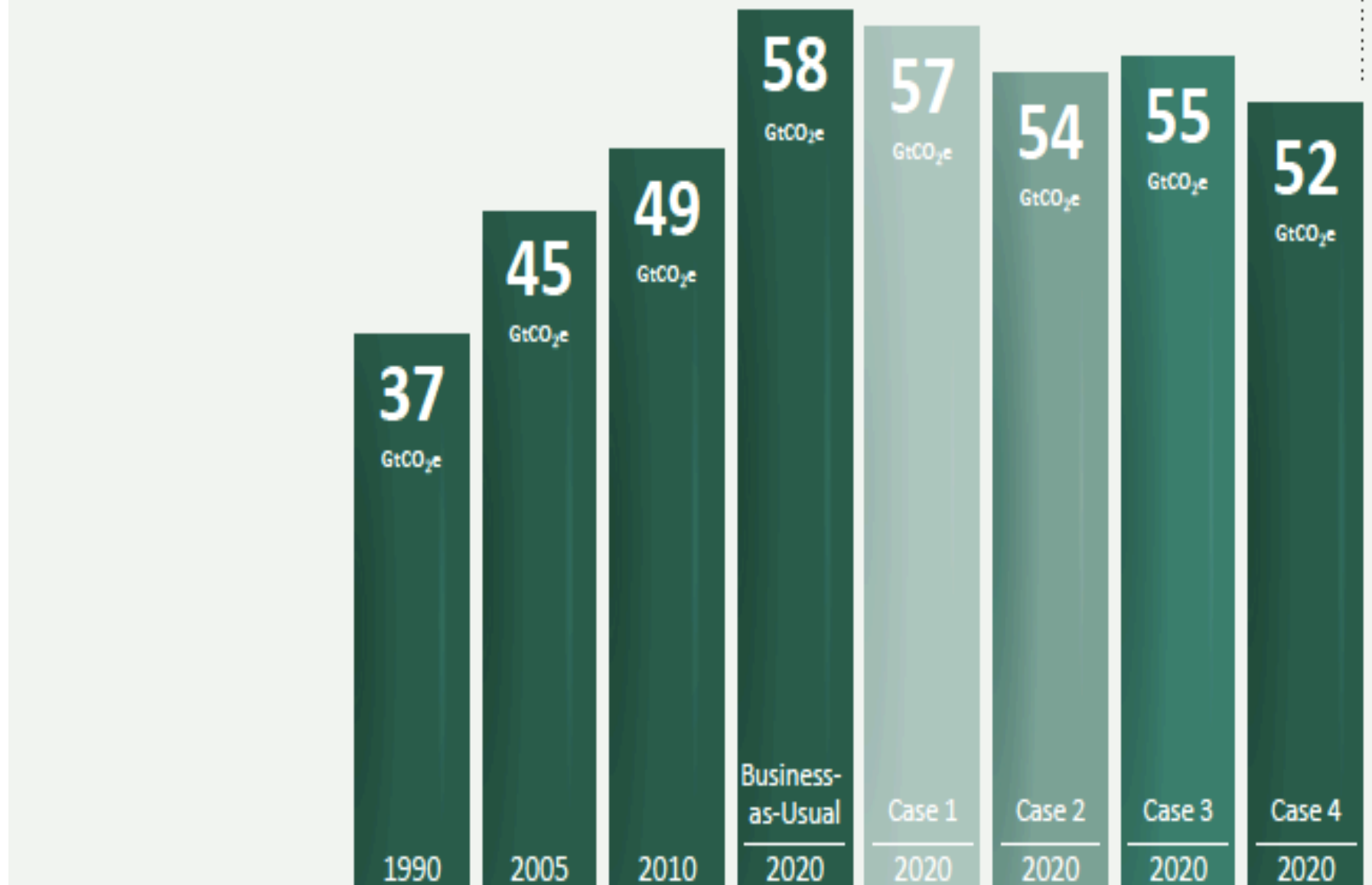
**Under the most ambitious case:**  
Gap = 8 GtCO<sub>2</sub>e/yr

**Pledges not enough to meet the 2°C climate target**

**We cannot wait until 2020 to begin stringent emission reductions.**

# Estimated global emissions

pledges made



Source: UNEP (2012)

# これからのエネルギー政策・環境政策

- 福島原発事故がこれからのエネルギー政策、温暖化政策の原点
- 温暖化対策と原子力
  - 原子力比率は温室効果ガス削減に影響はあるが決定的ではない
  - 原子力に依存してきたこれまでの温暖化対策の脆さがなかったか
  - 脱原子力依存も温暖化対策も省エネ、再エネが鍵を握る。政策による方向付け、効果的な施策の必要性
- 政策の「決め方」と情報公開
  - 従来型政策決定への回帰
  - 政策を議論するための情報の開示
    - 例えば、今後のエネルギー需要の想定。省エネのポテンシャル